

ALPS処理水の処分に関する 安全対策・風評対策の最近の動向

トピック集 2024年7月

販促・魅力発信

- 8月21日～27日の7日間、郡山市のうすい百貨店にて、「**ふくしま常磐大漁市 ～ふくしまの海からSDGsを考えよう～**」を福島相双復興推進機構の主催で開催する。
- 本イベントでは、SDGsに向けた魚の資源保護に関する普及啓発を目的とした展示を行うとともに、子どもに興味を持ってもらうことを目的として、海洋廃棄物であるマイクロプラスチックを用いた工作体験、子どもが描いた魚の絵をデジタル画面で泳がせる「デジタル水族館」などを実施予定。
- あわせて、**福島県の水産加工品の販売会である「ふくしま常磐大漁市」、浜の屋台と「常磐もの」キッチンカーによる「常磐レストラン」（24、25日限定）**を出店予定。

ふくしま常磐大漁市～ふくしまの海からSDGsを考えよう～

■ 日 程：2024年8月21日（水）～27日（火）

■ 場 所：うすい百貨店（福島県郡山市中町13-1）



マイクロプラスチック工作体験



デジタル水族館
（子どもが描いた魚の絵が泳ぐ）



しらす丼
（「ふくしま常磐大漁市」にて販売予定）

- 東京電力が福島県産品の美味しさや魅力を伝えるために実施している「発見！ ふくしま」の取り組みの一環として、7月25日、26日の2日間、新橋駅前SL広場及びニュー新橋ビル4Fテラス他にて開催された**第27回「新橋こいち祭」にブース出店を行い、福島県産「常磐もの」を使用したさんまのポーポー焼きや日本酒のほか、国産ホタテ焼きを販売した。2日間合計で約14万人の来場が見込まれる中、国産ホタテメニュー約1,600食を販売した。**
- 7月27日、28日の2日間、東京都世田谷区にある商業施設二子玉川ライズ・ガレリアにて、最盛期を迎える「ふくしまの桃」を中心とした県産品の販売、キッチンカーの出店やマルシェを開催した。2日間合計でふくしまの桃を**約5,000個を販売した。**

新橋こいち祭への出店

- 日程：7月25日（木）、26日（金）
- 場所：新橋駅前SL広場、ニュー新橋ビル4Fテラス(ビアガーデン)他



▲会場の様子

夏のおいしいふくしまフェア 2024

- 日程：7月27日（土）、28日（日）
- 場所：二子玉川ライズ・ガレリア（東京都世田谷区）



▲会場の様子

- 7月27日～8月2日の7日間、山口県を中心に展開するスーパー「Marukyu（マルキュウ）」50店舗においてホタテ・桃フェアを開催中。北海道・三陸産ホタテに加えて、福島県産桃の販売イベントを実施。
- 7月31日～8月6日の7日間、九州北部を中心に展開するスーパー「マルキョウ」43店舗においてホタテ・桃フェアを開催中。北海道・三陸産ホタテに加えて、福島県産桃の販売イベントを実施。
- 8月3日、4日の2日間、JR博多シティ博多駅前広場において開催される「ふくふくフェア2024」にて、キッチンカーを出店し、福島県産食材を使った特別メニューを提供するほか、福島県産桃を中心としたマルシェを開催する。

ホタテ・桃フェア@Marukyu（マルキュウ）

- 日程：7月27日（土）～8月2日（金）
- 場所：マルキュウ（山口県エリア50店舗）



▲会場イメージ

ホタテ・桃フェア@マルキョウ

- 日程：7月31日（水）～8月6日（火）
- 場所：マルキョウ（福岡県主要エリア43店舗）



▲2024年3月開催時の様子

ふくふくフェア 2024

- 日程：8月3日（土）、4日（日）
- 場所：JR博多シティ博多駅前広場
小イベントスペース



▲2024年3月開催時の様子

理解釀成

- 本年7月3日から7日にかけて開催された「第41回全日本級別サーフィン選手権大会」において、**東京電力福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水に関するブースを出展**。選手として参加したサーファーの方々や一般の観客の方々に福島第一原子力発電所のジオラマを用いて説明するとともに、パンフレットの配布を行った。

イベントの様子



- 本年7月26日から27日にかけて開催された「第3回日本観光ショーケースin大阪・関西」において、**東京電力福島第一原子力発電所の廃炉やALPS処理水に関するブースを出展**。来場者の方々に福島第一原子力発電所のジオラマを用いて説明するとともに、パンフレットの配布を行った。

イベントの様子



- **ALPS処理水に係るモニタリングの結果を一目でわかるマーク形式で表示**するページについて、**Yahoo!JAPANのトップページにバナー広告を掲載。**

ALPS処理水に係るモニタリングページ（抜粋）

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと

- ALPS処理水って何？
本当に安全なの？
- トリチウムって何？
- なぜALPS処理水を
処分しないといけないの？
- 本当に海洋放出しても
大丈夫なの？
- 近海でとれた
魚は大丈夫なの？

ALPS処理水に係る
モニタリング

経済産業省
Ministry of Economy, Trade and Industry

Twitter Facebook Line Messenger

日本語 | English

安全対策・
風評対策の取組 > 関連コンテンツ >

ALPS処理水に係るモニタリング

ALPS処理水は、放出前に、含まれる放射性物質の濃度測定を行い、安全基準を下回っていることを必ず確認するなど、厳格に管理されて放出が行われることから、近傍に生息する魚などの食品の安全性の問題は生じません。さらに、放出前後で、海水、魚類、海藻類のモニタリングを強化して実施し、状況を確認していきます。

ALPS処理水の分析結果

放出完了した水 ※

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、
いずれも基準を満たしていることを確認しました

※7月10日に採取を行ったALPS処理水（K4-Aタンク）
※基準：トリチウム以外の告示濃度比値和1未満

放出完了した水 ※

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、
いずれも基準を満たしていることを確認しました

※12月22日に採取を行ったALPS処理水（K4-Bタンク）
※基準：トリチウム以外の告示濃度比値和1未満

東京電力福島第一原子力発電所近傍海域のモニタリング結果（海水・魚に含まれるトリチウム）

現在の状態 ※

異常なし

※最新の各種間での分析結果をもとにしています

凡例

異常なし：「放出停止判断レベル」（設備の運用状況等の確認が必要な指標）を超えていないときに表示

「放出停止判断レベル」を超えるときに表示

※「放出停止判断レベル」は、「放水口付近で700Bq/L」「放水口付近の外側10km四方内で30Bq/L」と定めています。これを超えた場合でも、周辺海域のトリチウム濃度は安全基準60,000 Bq/LやWHO飲料水基準10,000 Bq/Lを十分下回り、周辺海域は安全な状態です。

Yahoo!JAPAN バナー広告

ページはこちら

Copyright Ministry of Economy, Trade and Industry. All Rights Reserved.

- 「ALPS 処理水について知ってほしい5つのこと」をそれぞれ1分程度でわかりやすく解説する動画について動画広告を展開。
(動画はそれぞれ画像左下の2次元コードからご覧いただけます。)

1分程度でわかりやすく解説する動画

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
ALPS 処理水って何？
本当に安全なの？




- ① ALPS処理水って何？
本当に安全なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
トリチウムって何？




- ② トリチウムって何？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？




- ③ なぜALPS処理水を
処分しなければならないの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと

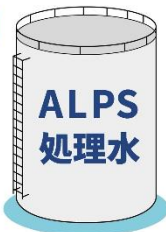


動画で解説
本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？




- ④ 本当に海洋放出をしても
大丈夫なの？

みんなで
知ろう。
考えよう。
ALPS処理水のこと



動画で解説
近海でとれた魚は
大丈夫なの？




- ⑤ 近海でとれた魚は
大丈夫なの？

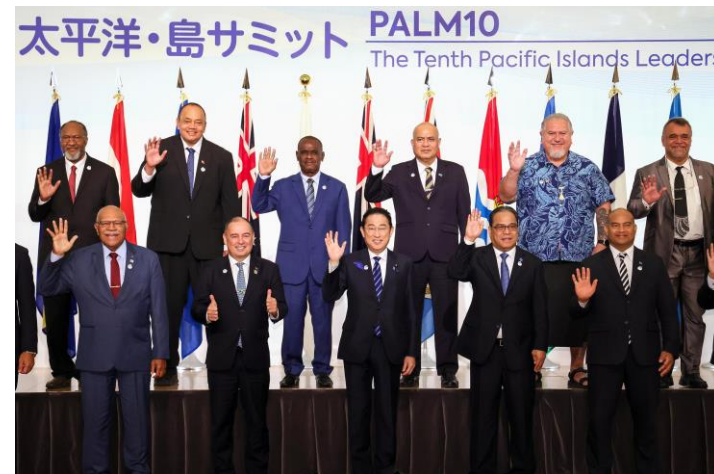
- 2024年7月16日から18日に開催された**第10回太平洋・島サミット（PALM10）**の**首脳宣言**において、「**岸田総理大臣は、放出は関連する国際的な安全基準及び慣行に沿って実施されているという日本政府の立場を説明し、国際原子力機関（IAEA）と緊密に連携し続けていくことにコミットした。首脳は、IAEAを原子力安全に関する権威として認識し、2023年7月4日に公表されたIAEA包括報告書に留意し、本件に関して科学的根拠に基づくことの重要性で一致した。**」との文言が盛り込まれた。

■ 第10回太平洋・島サミット（PALM10） 日本・PIF首脳宣言（関連部分抜粋）

Prime Minister Kishida explained the Japanese Government's position that the discharge has been carried out in line with relevant international safety standards and practices, and committed to continue working closely with the International Atomic Energy Agency (IAEA). Leaders recognized the IAEA as the authority on nuclear safety, noted the IAEA Comprehensive Report issued on 4 July 2023 and concurred on the importance of being based on scientific evidence in this matter.

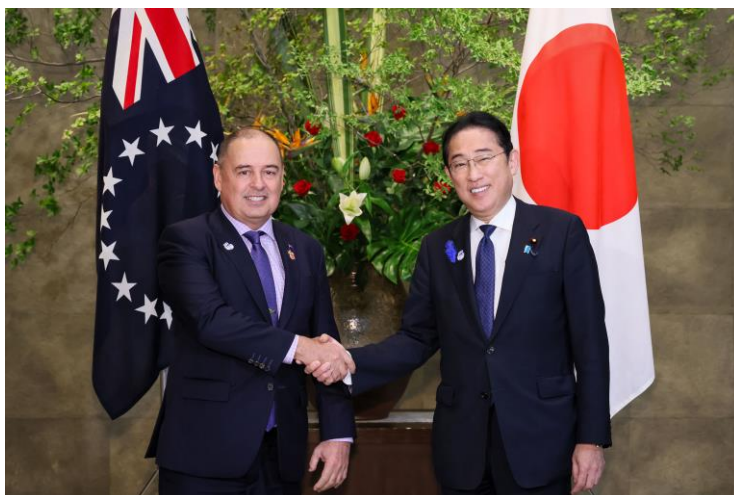
（仮訳）

岸田総理大臣は、放出は関連する国際的な安全基準及び慣行に沿って実施されているという日本政府の立場を説明し、国際原子力機関（IAEA）と緊密に連携し続けていくことにコミットした。首脳は、IAEAを原子力安全に関する権威として認識し、2023年7月4日に公表されたIAEA包括報告書に留意し、本件に関して科学的根拠に基づくことの重要性で一致した。



▲ PALM10の閉会セッションに臨む岸田総理及び出席した首脳（写真：首相官邸HP）

- 2024年7月16日から18日に開催された**第10回太平洋・島サミット（PALM10）**において、**岸田総理は、テオ首相（ツバル）、サルワイ首相（バヌアツ）、タンゲランギ首相（ニウエ）、マラベ首相（パプアニューギニア）、ウィップス大統領（パラオ）、ハイネ大統領（マーシャル諸島）、ランブカ首相（フィジー）、フィアメ首相（サモア）、首相（クック諸島）、ファカヴァメイリク首相（トンガ王国）、マネレ首相（ソロモン諸島）、シミナ大統領（ミクロネシア）、アデアン大統領（ナウル）と首脳会談を実施。**
- **ALPS処理水の海洋放出について、岸田総理から今後も安心を高めていく旨を説明、それに対し出席国の首脳からは歓迎の意が示される等した。**



▲PALM10の議長国であるクック諸島のブラウン首相との首脳会談（写真：首相官邸HP）

- 2024年4月23日から26日にかけてIAEAの職員及び国際専門家（アルゼンチン、英国、オーストラリア、韓国、中国、フランス、ベトナム、米国、ロシア）が日本を訪れ、**ALPS処理水の海洋放出後第2回目となるレビューミッション**を実施。
- 2024年7月18日、**IAEAは、東京電力福島第一原子力発電所におけるALPS処理水の安全性レビュー（放出後第2回）に関する報告書を公表。**
- 具体的なポイントとしては以下のとおり。
 - タスクフォースにより、**関連する国際安全基準の要求事項と合致しないいかなる点も確認されなかった。**
 - 規制インフラ**は、ALPS処理水の**放出を安全に監視するにあたり適切。**
 - 機器及び設備が実施計画及び関連する国際安全基準に合致した方法で設置され、運用されている。**
 - 東京電力と日本政府が報告されたデータの正確性と信頼性について、包括的で透明性のある客観的検証を行う上で、**IAEAの継続的な裏付け活動とオンサイトでの独立したサンプリングと分析が重要であることを指摘。**
- 東京電力と原子力規制委員会の活動が**関連する国際安全基準に合致しているかどうかを評価するため、引き続きレビューを行う。次のレビューミッションは2024年第4四半期に実施される予定。**



安全確保

東京電力

○海水中トリチウムを測定

- 放水口周辺 4 地点毎日、その他 6 地点で週 2 回（放出期間中）、放水口周辺 4 地点週 1 回、その他 6 地点で月 1 回（放出停止期間中）迅速分析を実施。

水産庁

○水産物は年約380検体でトリチウムを測定

- ①放水口の北北東へ約 4 km、②放水口の南南東へ約 5 kmの **2 地点で、週 4 回迅速分析を実施**（放出のない期間は週 1 回）

環境省

○海水中トリチウムを測定

- 放出期間中、放水口近傍 3 地点で期間中 2 回、その他沿岸 20 地点で期間中 1 回、迅速分析を実施。

（参考）原子力規制庁

○海水中トリチウムを精密分析にて測定。

- 20km以上離れた海域や、宮城県沖南部、茨城県沖北部でも、精密分析を実施。



計画どおりに安全に放出できていることを確認

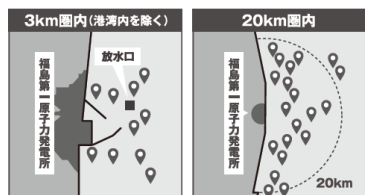
- 一昨年8月から、東京電力が、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉の取組について、**定期的に地元紙（福島民報、福島民友、岩手日報、河北新報、茨城新聞）に広告を掲載。**
- 本年7月も2回掲載しており、今後も**月1～2回の頻度で継続的に実施を予定。**

新聞への広告掲載内容（左上：モニタリング状況のお知らせ、右下：第38回）

福島第一原子力発電所「周辺海域のモニタリング状況」のお知らせ（2024年7月）

東京電力ホールディングスは2022年4月から、発電所近傍や福島県沿岸の海域において、トリチウムを含む放射性物質の監視（モニタリング）を強化しています。

海域モニタリングにおけるトリチウム濃度は、運用上の指標（放出停止判断レベル：700ベクレル/ℓ）を大きく下回り、計画どおり安全に放出できていることを確認しています。引き続き、ALPS処理水の海洋放出における安全性の確保に万全を期してまいります。



○：採取地点（海水） 定期的に試料を採取し、放射性物質濃度を測定。

	エリア	海水の測定結果【単位：ベクレル/ℓ】 （2024年6月1日～6月末までに得られた測定結果の最大値）
トリチウム 【迅速測定 ^{※1} 】	3km圏内	18
	20km圏内	検出せず（＜8.1）
セシウム134 ^{※2}	3km圏内	検出せず（＜0.97）
	20km圏内	検出せず（＜0.0014）
セシウム137 ^{※2}	3km圏内	
	20km圏内	

【＜】の右側の数値は検出下限値。検出下限値を下回った場合は、
※1：トリチウムの検出下限値を1リットルあたり10ベクレル程度と
※2：福島県沿岸海域における過去の測定値は、セシウム134・0
セシウム137・0.00028ベクレル/ℓ～0.45ベクレル/ℓ

包括的・海域モニタリング

当社以外の各機関（環境省、水産庁、原子力規制委員
および水産物の放射性物質濃度も有意な変動
詳細は各機関の分析結果を一元的に確認できるC
<https://www.monitororbs.jp/>

海域モニタリングの結果

当社が測定した海水や海産物の放射性物質濃度に、
有意な変動は確認されていません。
詳細は当社ホームページをご覧ください。
<https://www.tepco.co.jp/decommission/progress/water-treatment/monitoring/>

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進

TEPCO

広告

【参考】トリチウム濃度の比較

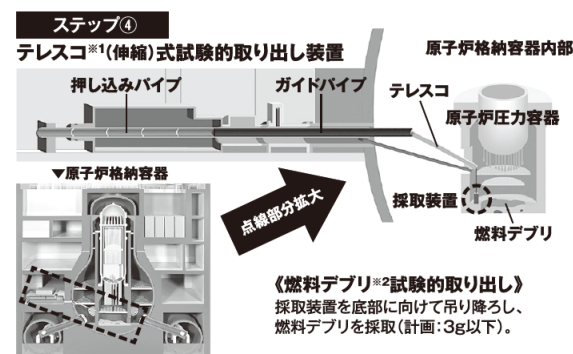
単位：ベクレル/ℓ	国の規制基準（排水口） ^{※1}
60,000	
10,000	世界保健機関（WHO）飲料水水质ガイドライン

福島第一原子力発電所の廃炉の現状と取組みをお伝えします Vol.38

福島第一原子力発電所の放射性物質によるリスクを継続的に低減する「廃炉・汚染水・処理水対策」の取組みについてお知らせします。「復興と廃炉の両立」に向けて、廃炉を安全かつ着実に進めてまいります。

2号機 燃料デブリ試験的取り出しに向け、安全を最優先に、慎重に準備を進めています。

試験的取り出しの主なステップ



Q.現在の状況は？

▶ 工場から、「テレスコ式試験的取り出し装置」を福島第一原子力発電所に向けて搬送し、2024年7月10日に構内へ搬入しました。
今後は、2号機原子炉建屋内で設置作業を行い、使用前検査を受検してまいります。

Q.燃料デブリの試験的取り出しの開始時期は？

▶ 2024年8～10月着手を予定しています。

※1：テレスコピックの筒状、大きさが異なる筒を組み合わせた、伸び縮みが可能な構造のアーム

※2：事故の際、原子炉内の燃料が溶け、周囲の構造物と混ざりながら、冷えて固まったもの



2号機 内部調査・試験的取り出しに関する公表資料はこちらをご覧ください
▶【2号機 PCV内部調査・試験的取り出し作業の準備状況（P4～18）】
https://www.tepco.co.jp/decommission/information/committee/roadmap_progress/pdf/2024/d240627_08-j.pdf



その他、公表資料はこちらをご覧ください
▶【廃炉プロジェクト/ニュースリリース/公表資料】
<https://www.tepco.co.jp/decommission/information/newsrelease/>



福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水・処理水対策
▶【皆さまのご意見をお聞かせください】
<https://www.tepco.co.jp/decommission/voice.html>

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー
〒979-1301 福島県双葉郡大町大字大町北22